

演題 中医学による加齢性黄斑変性症への鍼灸治療

(社) 愛知県鍼灸師会

春日井 真理

5 【はじめに】近年、高齢化が進むにつれて増加している、加齢性黄斑変性 (AMD) について、中医学による鍼灸治療により、興味深い結果が得られましたので報告させていただきます。

10 【症例】患者総数 14名(16眼) 滲出型 10名、萎縮型 4名
年齢層 28歳～60歳 平均 43.5歳
性別 男性 4名 女性 10名
【治療期間】 平成 13年 2月 10日～平成 19年 6月 16日
【主訴】 黄斑部の変性による視機能障害

15 【治療方法】ステンレス鍼 1寸 6分—3号(50mm—20号)を用い、天柱・風池・肝兪・脾兪・太衝・光明、同じく 1寸—0号(30mm—14号)を用い、球後・睛明を取穴し、腹臥位・仰臥位で各 15分置鍼した。半年を目安に週 2回の治療を行い、以降は状態の維持を目標に週 1回～月 1回の治療とした。中医学による証の分類では肝腎両虚や脾胃両虚が多く、補益肝腎、益気健脾、活血止血を主とした。

20 【評価方法】万国式 3メートル用視力表を用い、原則 3メートルの距離から毎回測定した。また測定の確度を上げる為、眼科での視力検査の結果を申告して貰い、視力の変化を確認した。平成 19年 6月には液晶視力表 NIDEK 社 SC-2000 を導入し、この時点で治療を継続されている方については、視力表をランダムに切り
25 替え、チャートをおぼえてしまうことによる不正確な検査が無い事を確認した。

【治療結果】治療開始時の患側の平均視力は 0.45、3ヶ月経過時 0.69、6ヶ月経過時 0.76 であり、6ヶ月経過時での 3段階以上の向上は 44%、2段階以上は 56% で、視力低下例は無かった。自覚症状も視野内の暗部の縮小等、改善は見られたが、歪みへの著明な変化は認められず、視力の向上や暗部の縮小から歪みが以前より目立つ例もあった。健側も 6ヶ月で平均 0.24 上昇した。視力低下による手術の必要は視力上昇の結果、1例を除き回避できた。滲出型での視力向上が大きい傾向があり、長期に治療を継続している方の 2段階以上の悪化例もなかった。

35 【考察】今回は滲出型・萎縮型の加齢性黄斑変性の治療を報告した。現代医学による治療効果が不十分とされる分野だが、鍼灸治療で一定の結果を示したことは興味深い。両眼の視力が上昇し、患側での再発・悪化や健側への発症も回避できる可能性がある。
当院は眼科領域を専門としており、他の眼科疾患を含めて今後とも継続した統計
40 を取りつつ、機会をみて報告したい。

キーワード：

加齢性黄斑変性 (AMD) 中医学